

平清盛館



安芸の宮島に蘇る
華麗な平安絵巻

清盛とともに宮島の魅力を再発見! ドラマの衣装も展示。

宮島の歴史や文化に関わる多彩な資料に触れながら
清盛の先見的で躍動感あふれる姿をご覧ください。

【展示内容】

- 平清盛と宮島の関連を表す史料等
- 平清盛像(重要文化財「平清盛坐像」の複製：宮島歴史民俗資料館所蔵)
- 大河ドラマ「平清盛」と厳島神社をテーマとしたオリジナル映像
- 出演者が実際に着た衣装・道具等やドラマの概要紹介 ● 廿日市市の紹介ほか

【開催期間】 平成24年1月14日(土)～平成25年1月14日(月・祝)

【開館時間】 午前8時30分～午後5時 期間中無休
※閉館時間の30分前までにご入場ください。

入場料(当日料金)

区分	一般入場券	団体入場券 (15名以上)	福祉入場券*
大人	500円	400円	250円
小中高生	250円	200円	130円

* 障害者手帳提示者及び重度障害者の介助者1名に適用します。



平清盛館(宮島歴史民俗資料館)



平成24年1月14日(土)

オープン!!

平成24年1月14日(土)～平成25年1月14日(月・祝)



清盛



ひろしま清盛
大河ドラマ「平清盛」
広島県推進協議会キャラクター



がんばろう! 日本

宮島歴史民俗資料館

宮島(厳島)は、平清盛をはじめとする平家一門の厳島信仰により広くその名を知られるようになり、古くから厳島神社を崇敬する幾多の人々や、戦国時代に形成された門前町の住民に守られ、今日まで「日本三景」の一つと称される美しい景観と豊富な文化財が残されています。歴史民俗資料館は、こうした宮島の歴史と文化に係わる多彩な資料や、近代化のなかで失われようとしていた民俗文化財の保存と継承を目的としてつくられた文化施設です。また、資料館は江戸時代後期から明治期にかけて醤油の醸造を営み豪商といわれた旧江上家の主屋や土蔵を展示施設の一部として利用しており、一八〇〇年代前半に建てられた主屋と土蔵のうち一棟は、宮島における商家建築の典型として国の登録有形文化財となっています。



◆展示館B

桃花祭(神能)、管絃祭、玉取祭、たのもさん、氏神祭、鎮火祭などの宮島の年中行事の写真パネルと関係用具・模型など約70点を展示。旧暦6月17日の管絃祭の御座船と漕船の模型が目玉です。



管絃祭 御座船



◆展示館A

石畳みのある土蔵をそのまま保存。釜・壺・釜・桶・臼・籠・山子鍋・大甕・清軍など約200点と、弥山壺火堂からおろした「消えずの壺火」の大茶釜を展示しています。



◆展示館C

宮島の生産・生業といえば、まず木工関係。僧誓真が考案したといわれる飯杓子、ロクロによる盆・菓子器・茶器、木匙、宮島彫などは、いずれも江戸時代後期に興されたものです。それぞれの製作工程・工具・製品や問屋の看板など今日までの変遷を跡付ける資料約100点を展示。



厳島三保松原図

◆展示館D(階上)

僧誓真像、宮島ゆかりの諸家の書画、屏風、古絵図、版木、案内記、古文書など主に江戸時代以降の歴史資料、また土器類などの考古資料あわせて約400点を展示。鳥めぐり行事を描いた七浦屏風、宮島芝居や富くじに関する資料、名所図会など信濃と観光のまち宮島を理解する上で欠くことのできない資料です。



厳島社頭之図



代表的な民家づくりと保存民家の母屋

宮島の古い町家は、間口が狭く奥行きが深いのが特徴です。大戸から入るとずっと奥まで「通り庭」になっており、それに沿ってミセ(表の間)オウエ(中の間)ザシキ(奥の間)と続きます。オウエ(オイエともいわれます)には天井がなく、戸棚の上には神棚が祀られています。



保存民家の母屋



渡り廊下と格子街



〔平清盛館(宮島歴史民俗資料館)へのアクセス〕

- 広島空港→JR広島駅 → リムジンバスで約45分
- JR広島駅→JR宮島口駅 → JRで約27分
- 広電広島駅→広電宮島口駅 → 広電で約60分
- JR宮島口駅→宮島口棧橋 → 徒歩約5分
- 広電宮島口駅→宮島口棧橋 → 徒歩約2分
- 宮島口棧橋～宮島棧橋 → フェリーで約10分
- 宮島棧橋→平清盛館(宮島歴史民俗資料館) → 徒歩約20分
- 音戸漁港～宮島棧橋 きよもりブルーライン

〔土・日・祝直往運航 1日3往復〕約60分